

英国近代日本語コレクションの形成



SOAS



CUL



BJL



BL

小山 騰

1

四大(五大)コレクション

- 英国図書館(国立図書館): 旧大英博物館図書館
- ロンドン大学東洋アフリカ学院図書館(SOAS) 図書館
- ケンブリッジ大学図書館
- オックスフォード大学ボードリアン日本研究図書館: 旧ボードリアン図書館

-
- シェフィールド大学図書館

2

英国の東洋研究を促進した報告書

- 1909: レイ報告 (Reay Report)
- 1947: スカーブラ報告 (Scarborough Report)
- 1961: ヘイター報告 (Hayter Report)
- 1986: パーカー報告 (Parker Report)

3

近代日本語コレクションの成立・発展

- 二つの要素(金・人)が関係していた。
- “**金**”: スカーブラ報告などにより、大量の資金が大学補助金委員会 (U.G.C.) などから提供された。
- “**人**”: 日本語文献を処理できる人が図書館に入った。

4

レイ報告 (Reay Report) :1909

- レイ卿 (Donald James Mackay, 1839-1921)
- **Report of the Committee appointed by the Lords Commissioners of His Majesty's Treasury to Consider the Organisation of Oriental Studies in London**
(Cd. 4560), the evidence (Cd. 4561)
- レイ報告はロンドンに東洋学院(のちに東洋アフリカ学院、SOAS)創設を勧告。SOASは1916年に創設。
- レイ報告は財務委員会(財務省)の報告書。
- “金”

5

スカーブラ報告 (Scarborough Report) :1947

- スカーブラ伯 (Roger Lumley, 1896-1969)
- **Report of Interdepartmental Commission of Enquiry on Oriental, Slavonic, East European and African Studies**
- スカーブラ報告は英国外務省の報告書。資金は大学補助金委員会が拠出。
- 日本研究資料(日本語コレクション)への資金については、東洋アフリカ学院とケンブリッジ大学の二大学が受領。
- 英国の近代日本語コレクションの基礎を築いた。
- ロンドン大学東洋アフリカ学院、ケンブリッジ大学、オックスフォード大学の三大学が、極東研究(中国研究と日本研究)のための資金を受け取った。
- オックスフォード大学は極東研究(中国研究と日本研究)のための資金を受け取ったが、すべて中国研究のために使用された。

6

ヘイター報告 (Hayter Report) 1961

- スカーブラ報告で、言語教育、古典教育、人文関係が発達したので、ヘイター報告では社会科学関係の発展が促進された。
- スカーブラ報告では、東洋研究などがロンドン、オックスフォード、ケンブリッジなどに集中したので、ヘイター報告では、ヘイター・センターを設けて東洋研究を英国各地に分散させた。
- 日本研究のヘイター・センターはシェフィールド大学（中国研究はリーズ大学）。

7

パーカー報告 (Parker Report) 1986

- **Speaking for the Future** : *a Review of the Requirements of Diplomacy and Commerce for Asian and African Languages and Area Studies*
- 外交や経済関係で、東洋諸国の重要性が増加したので、ビジネスなどに役に立つ東洋の言語が大学で教育されるように推奨された。
- 当時は日本の経済も繁栄中（バブル経済？）で、日本語もアラビア語や中国語などと同じように重要視されていた。

8

スカーブラ報告 (Scarborough Report) :1947

- 極東研究(中国研究と日本研究)の図書館支援のために、資金(一時金)を提供した。
- 三大学(ロンドン大学東洋アフリカ学院、オックスフォード大学そしてケンブリッジ大学)が資金(一時金)を受けた。
- ロンドン大学東洋アフリカ学院: 10,000ポンド(5,000ポンドはUGCが支給、5,000ポンドは自己資金)
- オックスフォード大学: 8,000ポンド
- ケンブリッジ大学: 6,000ポンド

9

ロンドン大学東洋アフリカ学院 (SOAS)

- * 申請金額: 10,000ポンド(現在の日本円で4千6百万円)
- * 5,000ポンド(U.G.C.), 5,000ポンド(自己資金)
- * 5,000ポンド(中国書籍), 5,000ポンド(日本語書籍)
- * 6,000ポンド(中国研究), 4,000ポンド(日本研究)
- * 1,000ポンド(中国研究のための日本語書籍)
- * 中国の内戦のため(外国為替による損失を防ぐため)、中国語書籍の購入は予定通りに進行しなかった様子?

10

オックスフォード大学

- * 申請金額: 8,000ポンド(現在の日本円で3千7百万円)
- * 2,000ポンド(ボードリアン図書館が中国語書籍を購入)
- * 6,000ポンド(新しく中国学部図書館を創設)(中国学部図書館→東洋研究所図書館→中国研究センター図書館)
- * 日本研究のための図書館資金はなかった。

11

ケンブリッジ大学

- * 申請金額: 6,000ポンド(現在の日本円で2千8百万円)
- * 3,000ポンド(弱?)(中国語書籍)
- * 3,000ポンド(強?)(日本語書籍)
- * 6,000ポンドのうち、日本研究のため図書館資金の方が多かったが、どの程度多かったかは不明。

12

ケンブリッジ大学（1949-50）

* 日本語書籍

2,543点(66%)、13,653冊(56%)

* 中国語書籍

1,288点(34%)、10,626冊(44%)

* 合計: 3,831点、24,279冊

13

東洋アフリカ学院（1948-49）

1950年の“図書館委員会”議事録の付帯資料

約30,000冊弱の滞貨が報告されている。

東洋アフリカ学院は、1948-49年におよそ3万冊

弱の中国語と日本語の書籍を購入？

14

東洋アフリカ学院 (SOAS) 図書館専門職員

1949年7月から

ケン・ガードナー (Kenneth B. Gardner) : 臨時アシスタント

1950年(1950-51年)から

ケン・ガードナー (Kenneth B. Gardner) : アシスタント・ライブラリアン (図書館では上から三番目か四番目に相当するポスト)

15

ケンブリッジ大学図書館

*** エリック・キーデル (Eric B. Ceadel) :** 1947年に日本語講師 (ケンブリッジ大学で最初の日本研究の教員) に就任、ケンブリッジ大学図書館で日本語書籍の目録作成を開始

*** 『Classified Catalogue of Modern Japanese Books in Cambridge University Library』 (『ケンブリッジ大学図書館所蔵日本図書 (明治以後出版) 分類目録』) (エリック・キーデル編集) が 1961年に出版された**

*** エリック・キーデル、1967年にケンブリッジ大学図書館長に就任**

16

大英博物館図書館

＊1905年にRobert K. Douglassが引退した後、50年間日本語書籍担当の専門職員がいなかった。

＊ケン・ガードナー(Kenneth B. Gardner)が、1955年に日本語コレクション担当のアシスタント・キーパーに就任。50年ぶりに任命された日本語コレクション担当の専門職員。

＊1950年代半ばから、近代日本語コレクションの収集を開始する。

＊英国図書館が1973年に創設される。

17

ボードリアン図書館

＊Adrian Robertsが、1957年に中国語コレクションおよび日本語コレクションとして任命された。1950年代後半から近代日本語コレクションの収集が開始される。

＊ Adrian Roberts → Jon Bunn → Izumi Tytler

＊ボードリアン日本研究図書館が1993年に創設された。

18

近代日本語コレクションの成立

重要な点

- * “金”（資金）と“人”（専門職員—日本語）が重要。
- * 資金：スカーブラ交付金、etc.
- * 職員：日本語が理解できる職員の採用。